

2019 年 8 月 31 日発行 **2019 年度 蘇遙会情報誌**
熊本大学工学部 土木建築学科（旧社会環境工学科） 蘇遙会



〔発行〕

蘇遙会事務局

〒860-8555

熊本市中央区黒髪 2 丁目 39 - 1

熊本大学工学部土木建築学科土木教室内

Tel : 096 (342)3544

Fax : 096(342)3507

E-mail soyoukai@kumamoto-u.ac.jp

HP <https://www.web-dousoukai.com/soyoukai/>

令和元年度 蘇遙会運営委員会を開催しました

※詳細はホームページをご覧ください

(<https://www.web-dousoukai.com/soyoukai/>)

運営委員会→令和 01 年度運営委員会報告 をご覧ください。

ご挨拶 山尾 敏孝 蘇遙会会長

蘇遙会会員の皆様、例年通りの厳しい暑い季節となりました今日この頃、如何お過ごしでしょうか。今年の熊本地方の梅雨は入りが遅かったにもかかわらずしっかり降りましたが、大きな災害もなく梅雨明けを迎えました。大学では工学部の1号館が完成し、やっと仮設校舎での生活が終わりました。4月から新工学部1号館にて教職員の皆様や学生たちが生き活きと仕事をしているようです。今までの建物とは若干違っているところもありますが、今後地震にも安心して仕事や研究ができると思われま

さて、令和になって最初の蘇遙会運営委員会を5月中旬に開催し、その一週間前に学科内での運営委員会を開催して本委員会の準備としました。今年度の蘇遙会運営委員会は、運営委員長が大本教授に、学科長は溝上教授となり、教室の2年担任は竹内准教授となりました。また、学生部の方も柴田恭輔部長、杉原拓海副部長が中心となる新メンバーとなりました。会議では、例年通り事業計画及び予算案について審議しました。特に、予算については厳しい状況が続いており、皆様の会費納入が柱であることを覚えていただき、会費の納入にご協力くださいますようお願いいたします。

学生部の活動では、早速4月の新入生の歓迎会の実施が問題となりました。従来は社会環境工学科でしたので蘇遙会主催の歓迎会で問題は無かったのですが、学科改組に伴い建築と一緒にになった「土木建築学科」では、1年生の段階では学科の区別はなくなったからです。そこで柴田君らに依頼して、建築の学生らと協議してもらい、さらに1年生の担任教員や学科長等にも協力をお願いした結果、どうか歓迎懇談会を百周年記念館で開催することができました。これも蘇遙会の団結と組織力が発揮された結果であり、今年度の活動の良いスタートが切れたかと思えます。土木建築学科の先生方には惜しみなく資金援助をしていただきましたことに心から感謝申し上げます。また、運営委員会では、各支部の活動状況が紹介され、最後に福岡県の右田委員、大分県の道脇委員、熊本県の上月委員が今度交代するとの報告がありました。発足当初から運営委員として多大な貢献していただきましたご三方には厚くお礼を申し上げます。

皆様には蘇遙会活動のご支援とご協力を引き続きよろしくお願い致します。

2018年度JABEE実地審査とその結果について 運営委員長 大本 照憲

本学科の2018年度JABEE認定プログラム責任者であった経緯から、その結果について報告する。

本教育プログラムは、2002年に(1)高等機関名：熊本大学工学部環境システム工学科、(2)プログラム名：土木環境工学プログラム、(3)学位名：学士(工)でJABEE認定審査を初受審し2007年まで6年間の認定を受けた。その後、2007年受審では3年間の認定を受け、2012年の継続審査では2017年まで6年間の認定を受けた。なお、熊本大学工学部では平成28年熊本地震により、多くの施設・設備に被害が発生し、特に社会環境工学教室の研究室では工学部1号館の建替えに伴い、2016年4月から2019年3月までの3年間、避難所生活を余儀なくされた。教育環境・学生支援に課題はあるものの復興に向けて継続的改善を行っている。

2018年11月11日(日)、12(月)の2日間で、JABEE実地審査が実施された。一般社団法人・日本技術者教育認定機構から2019年3月29日付文書を通して「教育機関名：熊本大学工学部、認定プログラム：社会環境工学科」は6年間の認定を受けた。JABEE実地審査の結果はC判定(懸念)が6個から5個に減った。JABEE審査委員長からは本学科の教育プログラムに対して高い評価を得た。

実地審査による指摘は、大きくは以下の2点であった。

- 1)「チーム力」における協働の重要性を学ぶ機会など、設定が具体的に欠け、達成度が不明であり懸念される。
- 2)「自己点検評価委員会」が学科内教員のみで構成されPDCAサイクルにより改善が図られるのか懸念される。

今後は上記指摘点の改善に加えて、エンジニアリング・デザイン教育の充実に向けて鋭意努力する必要がある。

最後になりましたが、卒業生の方々には、今後ともご指導ご鞭撻のほど宜しくお願い申し上げます。

JABEE 認定プログラムとは…一般社団法人日本技術者教育認定機構(JABEE)により、「技術者に必要な知識と能力」「社会の要求水準」などの観点から審査され認定された、技術者を育成する教育プログラムである。認定基準は、技術者に求められる国際的な要件に沿ったもので、認定プログラムの修了生は、国家資格である技術士の第一次試験が免除される。

Society5.0を担う土木教育と土木教室

土木建築学科土木教室 溝上 章志

蘇遙会の皆様におかれましては、ますますご健勝のこととお喜び申し上げます。本年4月1日に土木建築学科の土木教室の学科長を引き継ぎました。

昨年度末には社会環境工学科 80 名、大学院自然科学研究科博士前期課程社会環境工学専攻 28 名が卒業、同後期課程 9 名が修了し、進学、または職を得て社会に出ました。これもひとえに蘇遙会をはじめとする多くの皆様のご支援の賜であり、この場を借りて厚く御礼申し上げます。

一方で、4 月には土木建築学科に 128 名、大学院自然科学教育部博士前期課程土木建築学専攻に 38 名、同後期課程工学専攻に 6 名の新生を迎えることができました。学部では本年度より土木建築学科としての一括入試を行いました。新入生諸君は、1 年次は学科共通のカリキュラムを受講し、2 年次進級の際に土木系の土木工学（定員 48 程度）と地域マネジメント（23 程度）、および建築学（48 程度）の 3 つの教育プログラムのいずれかに分属されることとなります。分属は今年度末に初めて実施されるため、土木系の専門科目の面白さ、就職先の多様さや地域社会への貢献度の高さなどを、土木教室の教職員、蘇遙会学生部をあげて 1 年生諸君に訴えているところです。その際、蘇遙会の皆様の職場や社会でのご活躍の様子は学生諸君の教育プログラムの選択に大いに影響を及ぼすこととなりますことから、今後も「社会と企業」や「インターンシップ講演会」への講師派遣など、土木教室へのご支援を賜りますようお願い致します。

土木教室では昨年 10 月に大阪市立大学より森山仁志助教（構造

力学）を、本年 4 月には京都大学より松村政秀教授（耐震工学）をお迎えし、空席となっていた構造分野の充実を図ることができました。また、くまもと水循環・減災研究センターや地域創成推進機構にも教員を配置して研究・教育の充実を図っております。

大学は外からも内からも大きく変革を求められています。仮想空間と現実空間を高度に融合させたシステムにより、経済発展と社会的課題の解決を両立させるような人間中心の社会 Society5.0 を実現するため、技術と社会に大きな変容を求められる中で、標準化された試験の成績が評価基準であった教育から、今後は絶対的な解が無い課題に対して自ら独自の解を見いだす能力を持つ人材を育てる教育が求められるようになります。そのような潜在能力を持った学生をどのような選抜方法で見だし、どのような教育で肉付けをし、社会に送り出すが私どもには求められています。蘇遙会の皆様と一緒に考えていきたいと思っておりますので、今後ともますますのご教授とご支援をお願い致します。

末筆になりましたが、蘇遙会の皆様のますますのご活躍を祈念して、ご挨拶に代えます。



2018 年度 謝恩会

会費納入のお願い ～先輩から後輩へ応援のエールを～

蘇遙会は在学生への支援として、蘇遙会の収入より蘇遙会学生部活動費を拠出しており、それを受けて学生部は新入生歓迎会などの懇親会の開催、運動会、紫熊祭（大学祭）への参加を行います。他県から親元を離れて進学してきた学生や、なかなか大学になじめない学生などの不安を払拭し、仲間意識を強め、ひいては学業や日常生活に前向きになれるような活動に力を入れています。皆様のご理解とご協力をいただき、後輩である在学生たちに多くのご支援を賜りたく、会費の納入をお願いする次第です。

寄稿

「熊大土木」と新たな出会い

土木 昭和 59 年卒 道脇 哲郎 氏

28 年前にゼネコンを退職し大分で建設会社の経営に携わっています。市民が安心して生活できる環境を整備し応援することを基本理念に会社を運営しています。

地域の人の生の声を広く聞くためにも大小さまざまな会議や集会に参加していますが、ある時、20 人程の小さな会議の後の懇親会でふと懐かしい言葉が耳に入りました。「クマガイドボク」。えっ、この場所で「熊大土木」を口にする人がいる？ すぐにその場所に駆け寄り話を聞くと、その方は岐阜の設計事務所を退職され二年前に大分に移住された正に「熊大土木」の大先輩でした。懐かしさが込み上げてきて大学の話で盛り上がりました。その後も、その先輩のご自宅に伺い色々な話を聞く中で閉塞しがちな自分の考えを改める機会にもなりました。

かつて関東に住んでいた 20 代の頃、やはり「熊大土木」の先輩からアドバイスを受けたことを思い出し、今こうして 60 才を目の前にしても 20 才以上年上の先輩に教えられる。

これからも、この同窓の絆「熊大土木」をずっと大切に、次の新たな出会いを楽しみにしたいと思います。

大学時代の思い出（蘇遙会設立）

環境建設工学科土木コース 昭和 59 年卒

志垣 亮次 氏

大学を卒業して早 35 年、今年還暦、来年 3 月には定年退職を迎えます。ちょうど人生の節目の年に初代学生部長を務め、会の立ち上げに

参加した蘇遙会から大学時代の思い出について当時は振り返ってみたいです。

大学時代の思い出については、応援団長を務めた「工学部大運動会」、手で固めたパンの嵐で手荒に歓迎された「新入生対面式」、藤崎ホテルで開かれていた酒池（肉林ではない）地獄の「新入生歓迎コンパ」など強烈な印象がありますが、ただ学生の本分である「勉強」にまつわる記憶が希薄なのは、寂しくもあり、残念です。さて、今回は、蘇遙会立ち上げ時の話をしたいと思います

その当時、工学部全体の同窓会組織はあったものの、土木系独自の組織はありませんでした。そこで学生教員から、卒業生に向けて土木独自の情報発信や交流の場が欲しいという要望が上がり、蘇遙会を立ち上げることとなりました。

北園先生を中心に、山尾先生、小林先生とともに現役学生数人が参加し、まず発足の準備会を立ち上げて進めました。この会の立ち上げ時、北園先生の強いリーダーシップにより軌道に乗せることが出来ました。また、会の命名については公募し厳正な審査をした結果、北園先生から熱き思いを込めて提案された「蘇遙会」に決定しました。

発足と同時に、先生と学生が手分けして名簿作りを始め、会の基本台帳である独自の土木部系名簿が完成するまで半年位かかり大変苦労しました。

あれから 37 年、今では名簿もデータベース化で管理され HP から個人で情報の変更入力できるなど、編集作業について飛躍的に効率化が図られています。また、会の活動において、学生会による自主研修やレクリエーション活動、卒業生による特別講義等学生支援事業が活発に行われるとともに、教室の活性化、官庁や企業から就職活動に関する情報提供機会の増加が図られるなど、蘇遙会設立の目的である学生、現教職員、ならびに卒業生による相互の親睦がしっかりと図られていると思います。

大学卒業後、蘇遙会との関わりは疎遠になっていましたが、後輩の皆様がこれまで活動を引き継いでくださっていることに感謝するとともに、今後も蘇遙会が魅力的な会として継続されますことを願っています。

考えることと楽しむこと

社会環境工学科 平成 23 年卒/平成 25 年修了
縄田 雄哉 氏

——「あと 10 分で来るから。」待つこと 15 分、「今向かっているところだ。あと 10 分。」更に 20 分後、「OK,今から出発する」で更に 30 分…。ようやく乳剤散布車が来た。さあ散布開始！…何？エンジンが掛からない？何？ノズルが詰まって乳剤が出ない？だから前日に撒こうって言ったじゃないか！——40℃を越す灼熱の国インドの、現場での一コマでした。今現在、私はインドで舗装工事に従事していますが、この国では何事も、時間通りに進むことがまずありません。定刻に始まればラッキー、くらの感覚がインド人にはあるのかもしれませんが、時間に正確であることを美德と感じる日本人としては、ヤキモキすることの多い国です。ただ翻って考えてみると、日本人もダラダラと残業したりと時間のメリハリをつけられない、ある意味で時間にルーズな側面もあるのかなぁと試してみたり。いろんな視点で物事を考えながら、いろんなことを見つけて、日々を楽しんでゆければ、と最近ぼんやりと思っています。…締まらない文となってしまう恐縮ですが(笑)、最後に質問をひとつ。みなさんはどんなことを考えて、日々を楽しんでいますか？



(縄田氏撮影)

熊本大学工業会宮崎支部土木部会 活動報告

宮崎県 中村 亮太



熊本大学工業会宮崎支部土木部会における活動の近況をご報告します。

去る平成 30 年 9 月 28 日(金)に熊本大学工業会宮崎支部土木部会の総会及び懇親会を実施しました。

宮崎県内の民間業者で働くOBや県、市町村職員等、総勢 72 名が出席し、平成 29 年度の収支決算及び平成 30 年度の予算案、新役員選任等について審議し、承認をいただきました。

引き続き行われた懇親会では、大学から土木建築学科の川越教授、尾原教授、山成教授の 3 名の先生方にお越しいただきました。たくさんの懐かしい話や熊本大学の現在の様子などをお話いただき、大いに盛り上がったところです。

最後には、若手県職員 2 名による巻頭言と五校寮歌で締めくり、参加者全員で一致団結し、宮崎支部のより一層の結束を強めた懇親会となりました。

また今回、転勤により宮崎に赴任してきた方へ会員の皆様より積極的にお声かけ頂き、新たに 6 名の新規会員を迎え入れ、昭和 23 年卒業のOBから平成 30 年 3 月卒業の若手までが集まり、幅広い世代での意見交換を行うことができました。

今後も同窓生同士の交流と宮崎支部のさらなる発展を目指し、活動を行っていきます。

福岡県内の同窓会活動について

福岡県県土整備部 岸川雄次

(蘇遙会運営委員福岡)

福岡県内では、熊本大学工業会福岡支部や北九州支部などの地域別の活動をはじめ、福岡県庁や福岡市(銀杏会)、北九州市、久留米市などの役所ごとの土木系職員の同窓会や企業内での同窓会などの職域ごとの活動、さらに年代別ごとの活動など、様々な同窓会が開催されています。

その中で特に、熊本大学工業会福岡支部土木部会は、毎年11月末頃に開催され、建設業やコンサルタント業など産業界で活躍されている卒業生や、福岡県庁や福岡市役所、久留米市役所市などの官公庁で活躍されている卒業生だけでなく、大学の教室から、数名の先生や学生、さらに退官された先生方など学界からも参加していただき、産学官が一体となった、賑やかな同窓会となっています。

この会での注目は、現在の学校の状況報告で、学部編成の変更についてや、校舎の様子、学生の活動や就職状況などが報告され、参加された皆さんがとても興味深く聞き入られています。

その後の歓談の場では、名刺交換や情報交換が行われ、現場での苦労話や新歓コンパや運動会などの昔話、昨今の人材不足や技術者育成などの社会問題など、様々なテーマで話題が盛り上がり、1次会では時間が足りないのか、2次会、3次会へとたくさんの方が流れていきます。

このような同窓会に参加することで人脈が広がり、仕事や地域活動(ボランティアや災害応援など)などで多くの支援を得られますので、特に学生の皆さんは、学業のみならず、蘇遙会活動やサークル活動に積極的に参加され、社会人になったら、各々の同窓会にも積極的に参加されることを切に願います。



福井育英奨学金 2018年度寄付御芳名 (受付順)

・熊本大学工業会 福岡支部 土木部会 様 ・S56卒 中崎 邦夫 様

福井育英奨学金 平成30年度受給者名および就職先

修士2年 山本 真生

国土交通省

◆都道府県別蘇遙会会員数 (登録自宅住所)

(2019年7月20日現在 物故者除く)

北海道	5	滋賀県	8
青森県	1	京都府	24
岩手県	3	大阪府	83
宮城県	11	兵庫県	71
秋田県	0	奈良県	13
山形県	0	和歌山県	5
福島県	4	鳥取県	3
茨城県	20	島根県	8
栃木県	4	岡山県	11
群馬県	9	広島県	54
埼玉県	49	山口県	69
千葉県	88	徳島県	7
東京都	143	香川県	4
神奈川県	99	愛媛県	20
新潟県	3	高知県	6
富山県	0	福岡県	914
石川県	2	佐賀県	121
福井県	3	長崎県	177
山梨県	3	熊本県	816
長野県	1	大分県	227
岐阜県	6	宮崎県	149
静岡県	5	鹿児島県	157
愛知県	33	沖縄県	7
三重県	5	不明・その他	614
合計		4,065名	

メールアドレスの登録と更新をお願いします。

令和元年7月20日現在は137名(2018年は54名)の方が情報誌をEメールで受け取るように設定していただいています。また、転居などで郵送での連絡ができなくなった場合にもメールアドレスが変わっていなければご連絡を差し上げることが可能ですし、アドレスの公開設定を「同期生に公開」または「全卒業生に公開」を選択いただければ、研究室からのご連絡先として利用することも可能になります。個人情報もしっかりと守られており、ログインできる会員以外の方は会員情報を閲覧できません。

また事務局からの**連絡受け取り方法をEメールに変更**頂くと、情報誌やデータカード確認のお知らせ(PDF書類とメール本文にて送付)をEメールで受け取ることができます。

メールアドレスのご登録、更新をお願いいたしますとともに、今後とも蘇遙会の活動にご理解とご協力を頂きたいと存じ上げます。

◇卒業生の動向◇【物故者】2018年8月～2019年7月にご連絡があった方。卒・修年は蘇遙会正会員となった年、()内は没年月。

■熊本高等工業学校

S 8 卒・教授 吉田 弥七 様(没年月不明)	S10 卒・教授 園田 頼孝 様(没年月不明)	S17 卒 豊田 重喜 様(没年月不明)
S18 卒 有働 正行 様(2015)	S18 卒 大滝 謙一 様(2018.9)	S18 卒 新谷(水口) 浅治 様(2018)
S18 卒 原田(相川)敏春 様(没年月不明)	S18 卒 吉村 直剛 様(2017)	S19 卒 馬場 哲 様(2017.12)

■熊本工業専門学校

S20 卒 北川 健一 様(2017.6)	S20 卒 吉尾 正人 様(2017.11)	S22 卒 石川 幸史 様(2017.12)
S22 卒 川口 英美 様(2017.12)	S22 卒 河原 健二 様(2013)	S22 卒 田中 謙治 様(2019.6)
S22 卒 芳賀 亨 様(2018.4)	S23 卒 石川 順士 様(2018.7)	S23 卒 末次 勇一 様(2017.8)
S23 卒 田尻 孝一 様(2018.6)	S23 卒 久光 忠夫 様(2013)	S23 卒 平野 儀太郎(2018.10)
S23 卒 旧職員 星田 義治 様(2018.3)	S23 卒 森川 茂 様(2018.8)	S23 卒 森山 忠 様(没年月不明)
S24 卒 柚木 正裕 様(没年月不明)	S24 教養卒 高田 不朴 様(2018.10)	S25 教養卒 大岩 明信 様(2016.8)

■熊本大学工学部

S28 卒 大関 高城 様(2018.4)	S29 卒 赤澤 憲一 様(没年月不明)	S29 卒 小濱 久 様(2018.1)
S31 卒 小城 了 様(2017.12)	S32 卒 佐々木 昭 様(2018.3)	S33 卒 野中 信之 様(2018.2)
S34 卒 福井 研二 様(2018.5)	S35 卒 平川 淳一郎 様(没年月不明)	S36 卒 佐藤 暢一 様(2017.10)
S38 卒 石原 静夫 様(2017.2)	S40 卒 松藤 良佑 様(2018.9)	S43 卒 右田 泰弘 様(2018.5)
S48 卒 奥森 文雄 様(2018.10)		

■旧職員

助教授 榎本 貞治 様(没年月不明)	教授 梶原 光久 様(没年月不明)	講師 佐佐木 綱 様(2004.12)
教授 重松 愿 様(没年月不明)	教授 新郷 高一 様(没年月不明)	教授 福井 武弘 様(没年月不明)
教授 藤芳 義男 様(没年月不明)	助教授 前田 義行 様(没年月不明)	助教授 安中 久二 様(没年月不明)

教職員紹介

教員氏名（研究室名）	職名	近況
大谷 順 (地盤工学研究室)	教授	昨年から公益社団法人地盤工学会の会長を務めていますが、今年4月からは熊本大学の副学長に就任しました。学内外でいろいろ活動しており、皆さんにお会いするのを楽しみにしています。
大本 照憲 (河川環境研究室)	教授	運動不足解消のために始めた自宅と大学の往復7km弱の徒歩通勤は1年半を経過しました。四季折々の風景を楽しむことが出来、体調も良好となりました。
尾原 祐三 (地下空間工学研究室)	教授	大学の運営管理の職から離れ、最近では、論文の執筆、国際会議の発表、学会や委員会などの活動に力を注いでいます。朝のストレッチと腹筋背筋運動は継続しており、体形もよくなりました。
柿本 竜治 (地域公共政策研究室)	教授	来年は東京オリンピック、ちょっとその前に、今年はラグビーW杯日本大会ですよ！熊本でも2試合行われます。帰熊がてら、ラグビー観戦はいかがですか？オールブラックスのハカが、今から楽しみです！
川越 保徳 (水質環境学研究室)	教授	白内障の手術をしたのが3年前、青い空は青く、緑の葉は緑に、目に映る景色は一変し、感動の一言。あれから3年、後発白内障のわずか数分の手術は、鮮やかな景色をふたたび私にくれました。
重石 光弘 (環境材料工学研究室)	教授	初代土木建築学科長の任を解かれようやくと思いきや「社会と企業」という常識外れの私がかもっとも疎いところに焦点を当てたような授業科目の運営を任されてしまいました。キャリア教育の'キャリア'の意味は本来の意味とはまるで違う遊び言葉のようなものだとつくづく思います。
辻本 剛三 (応用海岸研究室)	教授	4年目で旧1号館➡研究棟I➡プレハブ仮設を経てようやく新1号館で落ち着けそうです。新しい研究テーマにチャレンジを試みるも、記憶力の低下を痛感してます。
松村 正秀 (構造力学研究室)	教授	4月に着任後、直ちに構造力学の講義を担当しております。5年の熊本、非常勤講師から久しぶりの熊本です。関西での経験を活かし、さらに2、3歩先んじた取り組みを進めて参りたいと考えております。よろしくお願ひいたします。
溝上 章志 (交通まちづくり研究室)	教授	定年まで1年半となりましたが、学科長として学科に奉公中です。一方で、「自動運転シェアリングやMaaSが描くモビリティと都市と社会」の研究にも奮闘中です。蘇遙会を大きく強く、育てましょう。
尾上 幸造 (複合材料工学研究室)	准教授	熊大に着任して4年目となり、研究室の活動も活発になってきました。個人的にはゴルフを始めました。まだまだ先は遠いですが、スコア100切りが当面の目標です。休日には子供達とニンテンドースイッチを楽しんでいます。
葛西 昭 (構造力学研究室)	准教授	1年半ほど休養をいただいておりました。まだ、フルスピードで教育・研究を行うことはできませんが、徐々にがんばっていきます。興味のある方はぜひ研究室を訪れて下さい。
佐藤 晃 (地圏システム工学研究室)	准教授	C2棟(工学部1号館)がこの3月に完成しました。それに伴い、不肖佐藤も21年間過ごした研究棟Iの9Fから新天地のC2棟4Fに引っ越してきました。新しい建物で心機一転、新鮮な気持ちで毎日を過ごしています。
竹内 裕希子 (地域防災研究室)	准教授	マレーシア首都のカボンバルを約10年ぶりに訪問。街並みが大きく変化する一方で、お世話になった人々は変わらず微笑んでいて安心しました。日本がかつて経験した課題を遅れて迎えているこの地域でなにができるのか考えています。
田中 尚人 (地域風土計画研究室)	准教授	昨年は「復興は木山中からプロジェクト」と題して、中学一年生約90名と先生方とともに「益城町の今」を伝える動画を作成しました。みんなの笑顔が眩しく、改めて挑戦することって大切だなと思いました。
濱 武英 (地域水循環デザイン研究室)	准教授	昨年からはじめたゴルフに続いて、今年は海釣りを覚えようかと考えています。
藤見 俊夫 (災害リスクマネジメント研究室)	准教授	今年の熊本は空梅雨かと思っていたら7月中旬に入って豪雨が多くなりました。水害が発生しないか心配です。
星野 裕司 (景観デザイン研究室)	准教授	バイクを購入して、もうすぐ1年。走行距離は7000kmを超えました。ようやく二人乗りもできるようになったので、妻も連れて、いろいろなところに行きたいです。
円山 琢也 (交通政策分析研究室)	准教授	絵を描くのが好きな子供たちを県内のスケッチ大会に連れて行っています。子供の目線での風景や構造物のとらえ方は新鮮ですね。

皆川 朋子 (河川・流域デザイン研究室)	准教授	阿蘇における自然災害や生態系サービスに関する研究をはじめました。先日放映された「ブラタモリ」(阿蘇は世界一のお役立ち火山)は勉強になりました。阿蘇ってやはりすばらしいですね。
椋木 俊文 (環境地盤工学研究室)	准教授	7月に地盤工学会とオーストラリアの学会に行くために(合計2週間)、6月から週3で土質力学と学生実験をやりました。そして8月はインドネシア、10月は南アフリカと台湾に行ってきます。
石田 桂 (河川環境研究室)	助教	今年度は国際学会や共同研究で北米や東南アジアへの海外出張が7回あります。やっとそのうち4つを終え、残り3つ。体力勝負です。
伊藤 紘晃 (水質環境学研究室)	助教	ベランダで植物を育て始めました。当たり前ではありますが、植物にもいろいろ 育ちやすい土や栄養状態等がいろいろと考えさせられます。
森山 仁志 (構造力学研究室)	助教	熊大に来て9か月が経ちました。大学・日常生活ともまだまだ慣れていませんが、楽しく過ごしています。研究室には4年生が5名入り、とても賑やかになりました。学生の長所を伸ばす研究室を作っていければと思っています。

技術部・事務補佐員	友田 祐一	技術専門員	池田 郁子	大本、濱研究室秘書
	外村 隆臣	技術専門職員	園山 恵	尾原、佐藤研究室秘書
	吉永 徹	技術専門職員	草場 静香	大谷、椋木研究室秘書
	佐藤 宇紘	技術専門職員	出田 香織里	田中研究室秘書
	上田 誠	技術職員	小川 香名子	星野、円山研究室秘書
	友田 桂子	土木建築工学科土木系事務室	椎葉 真弓	減災センター
			森永 尚子	溝上研究室秘書、蘇遙会事務局

新任のごあいさつ

松村 正秀 教授 (2019年4月赴任)

蘇遙会の皆さまにおかれましては、益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。4月1日に、くまもと水循環・減災研究教育センター 教授(減災型社会システム部門)に着任いたしました松村政秀と申します。土木建設学科土木コースでは構造力学関連の講義を担当しております。



私は、大阪市立大学大学院工学研究科、京都大学大学院工学研究科を経て、教員生活21年目を新天地、新校舎で迎えさせていただきました。この間、熊本大学工学部非常勤講師も務めさせていただき、熊大とは何か縁があったものと思います。鋼橋をはじめインフラ構造物の設計、建設、補修・補強・維持管理・更新に要される技術、橋梁の耐震に関連して補強後の部材性能や部材破断を伴う構造物の地震時挙動の解明など、ハード面から減災に関連する研究を進めています。

蘇遙会の発展に少しでもお力になればと考えておりますので、ご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

森山 仁志 助教 (2018年11月赴任)

構造力学研究室の助教として着任いたしました森山仁志と申します。伝統ある本学科に所属できましたこと、大変、嬉しく思っています。



私は大阪市立大学で博士(工学)の学位を取り、大阪市立大学都市学科の特任助教および非常勤講師、日本学術振興会の特別研究員PDを経て、本学に着任しました。研究は鋼構造分野を対象としており、鋼部材を連結するボルト接合部の力学的挙動の解明とそれに基づいた合理的な設計手法の提案を目標として、載荷実験および数値解析を行っています。今後は、鋼橋と石橋の維持管理や耐震性能をテーマにした研究にも取組み、熊本・九州地域に関わる諸問題を学生と共に考えていきたいと思っています。

教員としての実務経験は浅く、卒業生の皆様にお手数をおかけすることも多々あるかと思いますが、何卒ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。蘇遙会・工業会の活動で皆様にお会いできることを楽しみにしております。

研究室配属人数および学部学生数（1～3年） （2019年4月30日現在、10月入学生、社会人ドクターを含む）

		研究室(担当教員)	学部4年	修士1年	修士2年	博士1年	博士2年	博士3年	研究員	合計
土木工学 教育プログラム	地盤工学研究室 (大谷)	4	5	5				1	1	16
	河川環境工学研究室 (大本・石田)	5	1	2	1	1				10
	地下空間工学研究室 (尾原)	4	2	2					1	9
	地域公共政策研究室 (柿本)	5	1	2	2			1	1	12
	環境材料工学研究室 (重石)	4		5	4				1	14
	応用海岸研究室 (辻本)	4		1				1		6
	社会基盤計画研究室 (溝上)	4	3	5		1	2			15
	複合材料工学研究室 (尾上)	4	4	1	1					10
	地圏システム工学研究室 (佐藤)	4		1						5
	地域防災研究室 (竹内)	4	2	1					1	8
	河川・流域デザイン研究室 (皆川)	4	1	2	1			1	2	11
	環境地盤工学研究室 (椋木)	4	3	3			1	1		12
政策創造研究 教育センター	地域風土計画研究室 (田中)	4	4	3			1			12
地域デザイン 教育プログラム	水質環境学研究室 (川越・伊藤)	5	3	2				1	1	12
	構造力学研究室 (松村・森山)	5								5
	地域水循環デザイン研究室 (濱)	4	6	2						12
	災害リスクマネジメント研究室 (藤見)	4	1	1	1	1				8
	景観デザイン研究室 (星野)	5	2	3			1	1		12
	交通政策分析研究室 (円山)	4	2	3	1	1			1	13
合計		81	40	44	11	6	9	10	201	

学部生 1~3年	1年	土木建築学科(コース選択前)	124	1年生は土木建築学科入学生の総数です。2年生進級時に「土木工学」、「地域デザイン」、「建築学」にコースが分かれます。蘇遙会では「土木系」として、「土木工学」および「地域デザイン」を卒業する学生を対象とします。改組前入学の学部3年、4年生は社会環境工学科卒業となります。
	2年	土木建築学科土木工学	20	
	2年	土木建築学科地域デザイン	52	
	3年	社会環境工学科	87	

◆平成31年3月学部卒業生進路【順不同】

大分県、熊本県、佐賀県、長崎県、福岡県、宮崎県、菊陽町、熊本市、下関市、福岡市、都城市、横浜市、佐賀市、鹿児島市、大分市、北九州市、奥村組、大成建設(株)、東洋建設(株)、山本建設(株)、(株)富士ピー・エス、清水建設(株)、建設技術研究所、日本工営、パシフィックコンサルタンツ(株)、三井共同建設コンサルタント、八千代エンジニアリング(株)、(株)建設技術研究所、西部ガス(株)、テクノプロit社、UR都市機構、独立行政法人 鉄道建設・運輸施設整備支援機構、熊本大学大学院自然科学教育部博士前期課程、九州大学大学院工学府工学研究院博士前期課程、神戸大学大学院工学研究科博士課程前期課程、NTTファイナンス(株)、(株)西鉄エージェンシー

◆平成31年3月大学院(前期・後期)卒業生進路【順不同】

国土交通省、鹿児島市、熊本市、熊本大学、大成建設、東急建設(株)、(株)NIPPO、(株)安藤・間、(株)大林組、サンコーコンサルタント(株)、日本工営(株)、八千代エンジニアリング(株)、(株)オオバ、(株)オリエンタルコンサルタンツ、日之出水道機器、九州電力(株)、中国電力(株)、電源開発(株)、岩崎産業(株)、熊本大学大学院自然科学教育部博士後期課程

出前講義

6月28日に出前講義が行われました。蘇遙会学生部は5月上旬から東京支部と連絡を取り、出前講義の開催に向けて準備を始めました。出前講義当日は大雨の予報でしたが、予報とは裏腹に晴れ、無事に開催することができました。

講義ではゼネコン、コンサル、公務員、メーカーなど様々な業種でご活躍されている若手の先輩方のお話を伺い、実際に私達が将来どのような仕事をするのか、また、自分はこの業種に向いているのかをよりリアルに考えることができました。また、社会人として働く上で大変と感じる事や、仕事の中で何に魅力を感じているのか、仕事するとき以外のプライベートの過ごし方など、普段では聞けない社会人のライフスタイルを知ることができました。

講演の後に行ったグループワークでは、各グループに講師の方々が付き、今の私達が目指す社会人像について話し合いました。グループ内にも様々な意見があり、同級生が将来についてどのように考えているのかを聞くことができました。

出前講義後の懇談会では、もっと先輩方のお話を聞きたいと、当初の予定より多くの参加者があつまりました。講演では何うことができなかつたよりディープな話を聞くことができ、大いに盛り上がりました。

この日は今将来について悩みを多く抱える私達にとっても有意義な時間となりました。私自身も公務員志望でしたが、この日を経て、もう一度自分の将来について見直そうと感じました。同時に先輩方のように輝いた社会人になることができるように日々精進しようと思いました。

末筆ではありますが、今年もお忙しい中、遠路お越しいただいた先輩方に御礼を申し上げるとともに、企画・実行にご協力いただいた東京支部の皆様にご感謝申し上げます。(学生部 柴田恭輔)

講義の様子



学生の感想

今回の出前講義に参加したことは私にとって大変有意義でした。今まで受けたインターンシップ講演会やインターンシップでは、1回に一つの企業の話しか聞けませんでした。今回はゼネコン、コンサルタント、公務員の方から一度に話が聞けて、比較がしやすかったです。また、今日話をしてくださった方々は、みな熊大のOB・OGの方で若い方が多かったので、自分と重ねやすく、将来について想像がしやすかったということです。今回は、ご自身が熊大にいたときの話も多くくださって親近感も湧き、私も大学を卒業したらこんな風に働くのかなというビジョンが想像できました。
(学部3年 孫田佳奈)

今回の出前講義を聞いて感じたことは2つあった。1つ目はできるだけ早い段階で自分のしたいことを決めておくことと良いということ。自分がしたいことが決まればこれからの就職先や研究内容について早くから考えておくことが出来る。準備しておくことが出来ると思った。将来後悔しないようにインターンシップをいい機会に見つけたいと思う。2つ目は時間に余裕がある今のうちにしたいこと、今できることをしておくということ。社会人になると大学生に比べて圧倒的に時間がないことが強く印象に残った。休日にゴロゴロしながらスマホを触って1日が終わるようなもったいない時間の使い方をせず、勉強はもちろん、本を読み、たくさんの友人を作り、旅行や語学の勉強をするなど、有意義に使いたいと思った。
(学部3年 富重幹太)

◆出前講義講師およびご協力いただいた皆様 ()内は学部/院卒年

永井 勇輔 氏	(H26/29)	鹿島建設(株)
本田 壮司 氏	(H29/ -)	(株)NIPPO
高山 隼斗 氏	(H26/28)	鹿島建設(株)
中川 裕貴 氏	(H27/29)	東京建設コンサルタント(株)
小倉 孟 氏	(H25/27)	八千代エンジニアリング(株)
秋山 秀樹 氏	(H28/30)	国土交通省
富本 和也 氏	(H22/ -)	国土交通省
菊池 良介 氏	(S53/55)	大日本土木(株)
松木 重夫 氏	(S61/ -)	(株)NIPPO
柏原 裕彦 氏	(S62/ -)	(株)日本港湾コンサルタント
尾崎 友紀 氏	(H28/ -)	八千代エンジニアリング(株)
西山 菜緒 氏	(H27/ -)	鹿島建設(株)

グループワークの様子



2019年度のテーマは「繋」

3年 学生部部長 柴田 恭輔

このコンセプトには、従来の縦・横のつながりを大切にさらに広げ、また土木建築学科として入学してくる1年生とのつながりもしっかり築き上げていきたいという願いを込めました。

3月から新体制での活動を開始し、南キャンパス裏の河川敷で様々なレクリエーションをしながらバーベキューでお花見をしました。こういった機会では先輩や後輩などと交流できるため、参加してくれた学生はとても満足していました。4月の新入生歓迎会では、土木建築学科として入学してきた1年生を、建築学科の在學生と協力し新たな形で歓迎しました。初めての試みで不安でしたが、先生方や周りの方々に協力いただき、無事開催することができました。また、熊本大学のOBの方々と企画し、6月に熊大で「出前講義」を開催しました。(詳細は11ページ)今年も紫熊祭では、メロンパンアイス販売の予定です。昨年度より売り上げを伸ばすことを目標にしていますので、ぜひ蘇遙会のブースにも足を運んでください。その他にも学生部の活動として、ソフトボール大会やドッジボール大会などのスポーツ大会で同学年や先輩後輩との仲を深めるなど、定期的に行うイベントで学年を超えて交流を行っています。

また、今年度からは学生活動の目的としてまだ建築系か土木系が定まっていないう1年生に土木の魅力を学生の視点から伝えることも意識しています。

蘇遙会学生部活動予定

10月	工	学	部	運	動	会
11月	紫	熊	祭	熊	祭	会
12月	1	年	生	進	路	相
1月	忘	年	サ	ッ	カ	ー
						大
						会

♡学年を問わず参加お待ちしております！

蘇遙会学生部報告

ソフトボール大会を開催しました

— 年度内に再開催を検討中 —



2019年5月に毎年恒例のソフトボール大会を開催しました。1年生が1チーム、2年生が1チーム、3年生が2チーム、研究室が6チームの10チームで午前中に予選、午後に決勝トーナメントを行いました。当日はとても暑く、日差しが強かったのですが、どの試合も白熱し、暑さを忘れていました。スポーツという形で交流し、それぞれの学年や研究室内での繋がりはもちろんのこと、社環・土木建築学科としての繋がりをつくることができましたと感じています。蘇遙会のスポーツ大会はフットサルやバレーボールなど様々ですが、今回のソフトボール大会が参加者に大好評だったため、今年度中にもう1度開催することも検討しています。

今年は大谷研究室チームが優勝しました。

蘇遙会学生部活動の一部をFacebookで公開しています。



蘇遙会学生部